

ほうきょういんとう  
「宝篋印塔」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（石造物） 昭和 63 年 3 月 28 日
- 所 在 地 千曲市大字若宮 2 番地 佐良志奈神社境内
- 所 有 者 佐良志奈神社
- 概 要 供養塔 寸法：高さ 130 cm、幅 52 cm
- 時 代 南北朝時代
- 銘 文 等 基底部に銘文  
「信州若宮 永和二年 六月□□ 契約□□ 四拾五人」
- 公 開 いつでも可

この建物は佐良志奈神社境内本殿の北側にある、高さ 130 cm・幅 52 cmの供養塔で、塔身の一つが失われています。台石に「永和 2 年(1376)丙辰信州若宮契約従衆四十五人」と刻まれています。風化により見にくくなっています。周囲を鉄柵で囲って保護しています。

この塔は、南北朝時代(1333～1392)、南朝の宗良親王（後醍醐天皇の第 8 皇子）に従い戦に出かける人達が、自分達の墓として建てた逆修塚といわれています。明治の初め、佐良志奈神社の山麓より現在の位置へ移転したもので、元の場所は不明です。

南北朝時代の宝篋印塔で年号刻銘のあるものは珍しく、塔の姿が東風（石が直線的に加工されている）と京風（石が曲線的に加工されている）の両方を備え、当時の東西の文化がこの辺りで合流していたことを証明しています。

